
この声が届いたとしても

安藤孝太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この声が届いたとしても

【Nコード】

N2694J

【作者名】

安藤孝太郎

【あらすじ】

高校生最後の夏休みに、俺は弟と思い出を作るために旅に出た。

家族として会えるのがコレで最後になるから。

知らない町、知らない景色、知らない人達、全てが知らないことだらけで怖かったけど、それ以上に楽しかった。

旅をして数日俺たちは、ある村に辿り着き、そこでアレに出会った。

その出会いが俺たちの旅を決して忘れることの出来ない思い出に変えてしまった。

初日記

学校の宿題で今日から日記を書かなくてはならなくなった。担任の藤田先生が言うには「最近の若者はパソコンや携帯に頼り切っているせいで文章力が落ちている。文字を書く事を習慣ずけて将来に備えなさい」との事らしい。確かにその通りだと思うが、だからと言つて不定期でもいいから直筆で日記を書けというのはどうかと思う。きちんと書けば国語A評価ももらえるみたいだから書いてみる事にするけど。なにかから書いて良いのかわからないけど、今日家であつた事を書くことにしよう。

6月7日（金曜日）

俺はいつも通り朝7時に起きて家族のご飯を作った。母親は家事洗濯が苦手なので、家の仕事はいつの間にか、長男の俺がやることになっていた。ご飯の仕度が終わると、今度は弟の純也を起こしに行く仕事がある。全く、中学生にもなつたら自分で起きてほしいもんだ。部屋に入ると純也は時間など気にせずぐっすり眠っていた。「おい・・・起きろよ純也。学校遅刻するぞ。ご飯出来てるから早く起きて仕度しろ」

「・・・はいよお。兄貴いゝ服取つてくれない？」

「自分で用意しろ！とりえずはやく着替えてご飯食べに来い。飯が冷めちまうだろ？」

「ういゝ。」

いつものやり取りを終えて俺は部屋を出て行った。数分後純也が仕度を終えて居間に来たので、二人でご飯を食べて学校に向かった。俺たち兄弟は同じ高校に通っているの、登下校がいつも一緒だ。俺は3年で純也が1年だ。純也が学校を選んだ理由がいつ思い出しても下らない。

「俺は兄貴と一緒にの学校がいいんだよ。そのほうが学校生活面白いじゃんか」

これがその理由だ。俺と一緒にでなにが楽しいんだ？理解できん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2694j/>

この声が届いたとしても

2011年1月12日22時32分発行